

あしや子ども風土記

芦屋の地名をさぐる ②

芦屋の町名は、山と海の豊かな自然環境や、古代から現代にかけて起こったさまざまな出来事が、町名に受け継がれています。

由来を考えていくことで、人々の暮らしと町名の関わりや、地域の歴史や文化の再確認をすることができると思います。

芦屋の由来(近世)

旧四力村の時代(芦屋・打出・三条・津知)

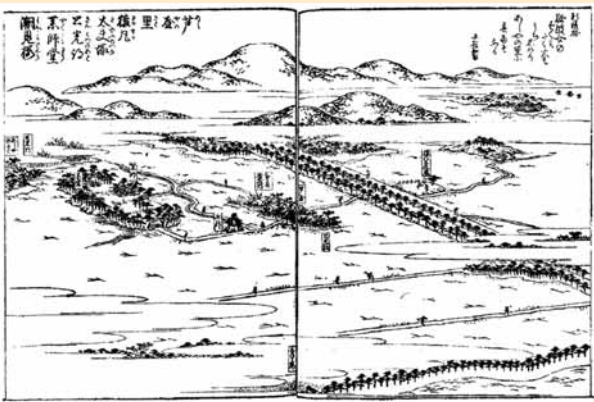
■近世の芦屋

戦国時代末ごろの芦屋には、芦屋・打出・三条・津知の四力村がほぼ出来上がっていました。この内、芦屋・打出は芦屋庄といい、三条・津知は近くの森・中野・小路・北畑・田辺・深江・青木とともに、本庄九力村」といってそれぞれ行動を共にしていました。

芦屋庄には天神社現芦屋神社(東芦屋町)があり、本庄九力村に

は稲荷大明神(稲荷神社)森北町)があつて、大切なことを決めるときには、村人が集まって話し合いをしました。

江戸時代になると、この四力村は尼崎藩の領地となりました。一六九九年に四力村の家数や人数を調べたものによると、芦屋村は九十七軒・五百九十七人、打出村は八十八軒・六百三十八人、三条村は三十二軒・百六十九人、津知村は十一軒・八十一人となっていました。



『摂津名所図絵』寛政8年(1976)に見える芦屋

このように芦屋村と打出村が全四力村人口の八割を占めていましたが、一七六九年にはこの二力村が天領(幕府の領地)となって、三条と津知は尼崎領として残りました。

村では庄屋や年寄といわれるような農民の代表者によって、大切なことが話し合われ、決定されていきました。村の暮らしには水や山の資源は、欠かすこと

芦屋の由来(近代)

■近代の芦屋

明治二十二年(一八八九)町村制が実施され、江戸時代の打出芦屋・三条・津知の四つの村が合併して、精道村ができました。精道村の「精道」は明治十九年に開校された精道小学校の校名からとられました。この校名は、西宮の学者豊田政苗が書いた養精修道の

できないもので、その利用をめぐって争いが絶えず、十分な話し合いが必要だったので、

また、このあたりは京都や大阪に近い街道沿いであつたため経済の発展も早く、芦屋川の水を利用した水車産業が栄え、菜種油絞り・精米・そうめん業が行われました。浜辺ではイワシの地びき網漁が行われるなど、地理的な特徴をいかした産業が発達しました。



水車白跡

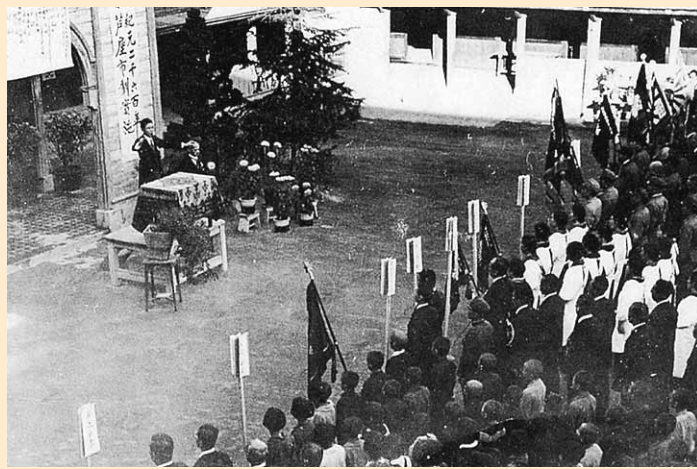
「あしや子ども風土記」にも風土記伝説・物語に芦屋沖の竜灯や水車小屋を舞台にした『金兵衛車』や『金兵衛車』を紹介していますが、これらは産業に対する村人の思いが伝説となつて残つたと思われ

語から二字を選んだといわれています。

精道村は、国鉄・阪神・阪急そして阪神国道電車などの交通機関の発達にともなつて、住宅地として開発が進められ、昭和初期にかけて生活環境の整備もされてきました。

この間、昭和九年(一九四三)・十三年に阪神大水害がおこり、多くの被害を受けましたが、これを乗り越え、市制施行を目指して準備が進められました。

村の人々の長年の望みであつた市制の実施は、昭和十五年十一月十日に実現しました。このときの人口は四万一千九百二十五人、戸数八千四百七十七戸を数えました。市の名前については、打出市にしたらどうかという意見もありましたが、市制施行二開スル上申書によると旧四



精道小学校で行われた市制施行の祝賀式

力村の内、芦屋村が面積・戸数・人口などが一番多いこと、芦屋の名前が高級住宅地として全国的に知られていること、精道村にある駅・警察署・郵便局などの施設の名称がすべて「芦屋」という字が頭について



市制施行祝賀式 昭和16年夏 戦争などのため、正式の祝式は翌年校舎の新しかった岩園小学校で行われた。

●平成五年に発行した「あしや 子ども風土記」芦屋の地名をさぐる」を紹介しています。ここでは、発行当時の原文に近い状態で引用しています。

利息を払いすぎていませんか？

【広告】

10年以上消費者金融に支払いを続けている方は、お金が戻ってくる可能性が高くなります。なお、140万円を超える過払い金の請求は、法律上弁護士しか扱えませんので長期にわたって支払いを続けておられる方は、ご注意ください。

過払金請求交渉と任意整理は着手金無料

日曜・土曜・平日夜間(月～金の夜9時まで)法律相談 相談無料 阪神西宮駅スグ

ひまわり法律事務所 兵庫県弁護士会所属 弁護士 上原 邦彦ら2名 弁護士 西宮

0120-86-3150 (予約制) ひまわり法律事務所 検索

* 阪神西宮駅えびす口北徒歩3分、国道2号線沿い
* <http://www.himawari-law.net/>

携帯・パソコンのHPより24時間予約申込受付 兵庫県西宮市和上町5番10号明治安田生命ビル8F

「会下山遺跡発掘調査」現地見学会

50年ぶりに会下山遺跡の再調査を行い、本遺跡の広がりや価値、高地性集落の性格などについて、改めて知る機会となりました。この結果を公開するため、次のとおり現地見学会を開催します。

■日時 10月31日(土)午後1時～3時 時間内随時 雨天時は、11月2日(月)に延期
■会場 会下山遺跡 ■受け付け 山手中学校正門前で、調査地点地図・資料を配布 現地には担当者が待機し、解説します。 車での来場はご遠慮ください。



問い合わせ 生涯学習課文化財担当 ☎38-2115